

—市政の発展に貢献された個人・団体を表彰— 令和4年度市政功労者表彰式

本庄市市政功労者表彰式



年頭のごあいさつ



本庄市長 吉田 信解

新年明けましておめでとうございませす。令和5年の輝かしい新春をご健勝にてお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

市民の皆さまには、日頃より市政に對しまして深いご理解と温かいご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、児童の尊い命が奪われる痛ましい事件が市内で起きていたことが3月に発覚しました。この事件に對しては、第三者による検証が進められていますが、検証の結果を待つて、また待たずして、子ども基点でなすべきことをしっかりと進め、このような事件が2度と起きないように、再発の防止に取り組んでまいります。

6月、市内は降ひよう被害に見舞われ、住宅や車両、また、公共施設にも大きな被害が出ました。特に、この自然災害は、本市の重要な産業である農業に甚大な被害をもたらしました。そこで、クラウドファンディング型の寄附など多くのご厚意に預かるなか、支え合いのありがたみを実感いたしました。

内外に目を向けますと、依然としてコロナ禍の状況が続くなか、ロシアによるウクライナ侵攻に端を発する物価上昇などにより、市民生活も大きな影響を受けました。こうした中、本市では、これまでのコロナ禍への対応や生活支援に加えて、水道の基本料金を6か月間免除するなど経済支援策

を講じ、市民や事業者の負担軽減を図ってまいりました。

令和4年は、誠に多事多難な年でありましたが、一方で、コロナ禍以前の日常を取り戻し始めた一年でもありました。

まず、晩秋の風物詩である「本庄まつり」「こだまつり」を3年ぶりに開催できました。感染症対策など、ご苦勞も多かったことと拝察いたしますが、多くの市民や見物客の笑顔はすばらしく、関係各位に心から感謝申し上げます。

同じく11月には「ほんじよう産業フェスタ」を初めて開催し、本市の農商工にわたる魅力を発信することができました。当日は、3年ぶりに「はにほんフェスティバル2022」が同時開催され、両イベントの相乗効果もあつて盛況のうちに終えることができました。

こうしたイベントに加え、文化・芸術やスポーツの分野でもコロナ禍と向き合いながら、活動が活発になってきたと感じます。また、市内各地域での伝統行事、自治会単位での防災訓練など、停滞を余儀なくされてきたコミュニティ活動が徐々に再開され始めたことも明るい兆しといえます。

まちづくりのトピックスとしては、国道17号本庄道路のⅡ期区間（国道462号東側から深谷市岡までの区間）の事業化決定、新しい神流川橋の開通など、事業に大きな進展がありました。長年、ご尽力

されてこられた多くの方々のお力添えの賜物であり、感謝の念に堪えません。

さて、本年は、市の将来像を示した「総合振興計画」の後期基本計画（令和5～9年度）のスタートの年になります。この計画の着実な実施はもとより、昨年策定した「本庄駅北口周辺整備基本計画」に基づきまちづくりの前進、現在取り組んでいる「産業振興計画」や「公共施設等総合管理計画」の策定、「道の駅」構想など、5年後、10年後を見据えながら、目指すべき本市の未来に向けてじっくりと取り組んでいく、そんな1年になると考えています。

また、高齢者の支援を目的とする地域包括ケアシステムの充実や、全ての妊婦・子育て家庭に対する件走型相談支援など、各分野の課題についても、皆さまの声を聞きながら丁寧に進めてまいります。

本年も皆さまのお力添えをいただきながら、「世のため、後のため」、まちづくりに魂を込めて、市政の進展に傾注してまいります。

結びに、皆さまのご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

市では、市民の生活・文化の向上や社会福祉の増進など、市政に對して特に功勞があり、他の模範となる人を表彰しています。

11月24日に市役所で、市政の発展に貢献された皆さんに市長が表彰状を手渡しました。

受賞者（敬称略・受賞者名簿順）

自治功勞

巴 高志
高橋 文子

社会福祉功勞

山下 眞弓
井河 彰久
倉林 泰子
坂本 昇男
倉林 敏澄
赤沼 香代子

青少年健全育成功勞

木村 登志男

保健功勞

田端 雅彦
宮田 博史
矢内 伸幸
林 勇毅

体育功勞

萩原 和美
新井 悦子

環境衛生功勞

筑紫 善一朗
新居 幸子
赤城乳業株式会社

教育文化功勞

雉岡 恵一
遠藤 剛
根岸 祐次
松本 俊子
和久井 節子

特別功勞

森本 真敏

消防防災功勞

石井 彰
岡芹 純一

産業功勞

小川 忠
田端 講一



※ご本人の希望により3名のお名前の公表を控えています。